

企業名：五洋建設

レポート名：コーポレートレポート 2021

1. この会社が目指す姿が理解できるか

理解できる。主に資料4ページおよび7ページにおいて、五洋建設は「真のグローバル・ゼネラルコントラクター」を目指していると述べられている。「真のグローバル」を「土木・建設、国内・海外の垣根がなく、D&I (Diversity and Inclusion) の先進企業として、性別、国籍を問わず、多様な人材が互いを認め合って生き生きと働く会社」だと定義しており、さらに目標とする会社像に近づくための具体的な方針や施策が ESG の観点から資料全体を通してそれぞれ具体的かつ明確に述べられている。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

理解できる。「国内土木」、「国内建築」、「海外」、「2020年度の主な竣工工事」のページから、五洋建設は高い建築技術、建設現場での生産性向上を実現する IT 技術、そしてそれらを活用して国内外で事業を実行し完遂するためのノウハウを有していることがわかる。持っている技術力を活かして社会インフラの整備や地域活性化に貢献していること、新規参入ハードルが高い土木建設業において、国外での事業展開および事業拡大のための基盤を既に持っていること、これら2つが五洋建設の主な競争優位性であると考えられる。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

理解できる。環境的な面ではカーボンニュートラル、洋上風力、生物多様性の保全、リサイクルなどへの取り組み、社会的な面では主に働き方改革や業務の効率化に力を入れている。どの取り組みも、事業環境と労働環境を健全に保つことが持続的な事業発展や競争優位性を保持するうえで不可欠だという同社の持続性に対する考えが明確に現れているものだと考える。

3. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

五洋建設は建設に関する高い技術力とノウハウを有しており、それらが実際に活用される環境に携わることになれば貴重な実務経験となり、新たな知識と経験の蓄積を通して自身の人的資本の価値向上を達成できると考える。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

資料全体を通して、社会に対する五洋建設の事業の貢献度と、それが今後どのようにして持続されていく予定なのかなど、同社の現在と将来への展望を知ることが可能である。しか

し、従業員という個人に対する同社の貢献度については詳しく触れられていない。労働環境の改善について述べられてはいるものの、従業員の個人としての成長につながるような事柄をこの資料からは読み取ることができないため、人的資本の価値向上について評価することが困難である。よって、従業員を「五洋建設グループを取り巻くステークホルダー」に加えるあたり、従業員個人に対して同社が与える恩恵についても説明を加えることによって報告書の改善を図ることが可能だと考える。